

身近な文化財

第十四話
道ばたに眠る歴史①
戊辰戦争の墓・供養塔

慶応4年（1868）、旧幕府軍と新政府軍の間で戊辰戦争が勃発し、白河では旧暦の閏4月から7月にかけて「白河口の戦い」と呼ばれる激しい戦闘が繰り広げられました。この戦いで、両軍合わせて千人を超える死傷者が出たとされています。

戦争の後、各地に戦死者を弔うための墓や供養碑・慰霊碑が建てられました。本町の長寿院にある新政府軍戦死者墓所や、南湖公園の共楽亭そばにある榎倉藩士の鎮英魂碑などがよく知られていますが、その他にも多くの墓や供養碑が現存しており、市内だけで合計100基以上を数えます。

例えば、奥州街道と会津街道の分岐点である女石の交差点付近には、旧仙台藩士を弔う供養碑と、周辺で亡くなった名前の分からない武士たちを供養する



▲仙台藩士供養碑（女石）

ために地元住民が建てた石碑が並んでいます。その他、小田川の宝積院や白坂の観音寺、表郷金山の正金寺や東釜子の長伝寺など市内各地域の寺院にも、墓や供養碑が所在しています。

また、激戦地となった稻荷山のみもとにある会津藩戦死者の墓もよく知られていますが、道路を挟んで新政府軍の長州・大垣藩士の墓があり、両軍の碑が向かい合っています。地元では、どちらも分け隔てなく供養されており、今でも墓前に花が手向けられています。

こうした石碑の中には、田んぼの隅や何気ない道ばたに立っているものもあります。見つけた際には足を止め、歴史を振り返ってみてはいかがでしょうか。
問文化財課 ☎272310



▲道路を挟んで向かい合う会津藩戦死墓と長州・大垣藩士墓（松並）



地域で輝く卒業生

大高 勇誠 さん
（令和4年度 機械科卒）

▷勤務先
信越半導体㈱白河工場



現在、ウェーハ製造一課のメンテナンス工程という職場で、機械の基本的な操作を学び、経験を積みさせてもらっています。手順を守らないと危険な作業もあり、ミスをしない工夫や安全に業務を進めるために必要な心構えなど、機械科で学んだことが生きています。

この会社に就職したいと思ったきっかけは、半導体の素となるシリコンウエハーの売り上げが1位でありながら、お客様のために商品の改良や新商品の設計を続けているところにこだわりや努力を感じたことです。

高校在学中、楽しかったのは課題研究です。失敗も多かったですが、友達と協力して一つの作品を作ることに夢中になったのを覚えています。また、機械科でしか取れない資格の取得など、ほかでは経験できない作業に打ち込みました。

新生 白河実業 Vol.3

〒白河実業高校 ☎1176

★各科紹介① 機械科（本校舎）

機械科では、旋盤や溶接などの機械加工に関する知識や技術を学んでいます。また「SDGsものづくり」をテーマに、廃材を再利用した学習を行ったり、南湖公園へのごみ集積ボックス配置に関する研究にも継続的に取り組んでいます。



▲今年着任の教諭と女子生徒たちの実習風景



▲ごみ集積ボックス制作メンバー